

2016年11月16日

## CA Technologies のマイケル・グレゴア CEO、 「Built To Change (継続的な変化)」が 新たな成功のパラダイムになると予測

～CA のソフトウェア・ポートフォリオは感知-反応-適応機能を提供～

(本資料は、2016年11月16日 CA World '16 にて米 CA が発表した情報の抄訳です)

(2016年11月16日、ラスベガス発 — CA World '16)

CA Technologies(本社:米国ニューヨーク州アーランディア市、CEO:マイケル・グレゴア)のマイケル・グレゴアは CA World '16 の開会に際して、企業はすべての活動の中心にソフトウェアを置き「継続的な変化をする」ことで、今後成功を収める企業になる、と推測しました。

### Built to Change (継続的な変化) が新しいパラダイム

定常的な経済の変動を背景に、継続することを前提としたビジネス・モデルを採用する考え方は「この新しいデジタルの現実に即していない」とグレゴアは語りました。「持続可能な競争優位の考え方とは、事業の敏しょう性という現代的なコンセプトにおいて、シフトする市場のダイナミクスを自動的に感知、反応し、素早く適応する能力に代わろうとしているのです」

「継続的な変化をする」企業は、現在の構造やエコシステムがより良いアイデアに対して脆弱であることを知っています。人材を管理する方法から、固定資産の束縛の回避やリスクの対処法まで、「継続的な変化をする」企業はこれらの解決方法として事業の敏しょう性に注目しており、そのことによって、顧客エクスペリエンスの迅速かつ継続的改善を促進することを可能にしています。

### 推進力として不可欠なソフトウェア

グレゴアは、ソフトウェアを企業が成功を収めるための必須の推進力であり、差別化要因であると位置づけています。「ソフトウェアは今や企業のDNAの中心的構成要素となっています。それは、新しいニーズ、脅威、チャンスを感知し、それに対応するための不可欠な顧客対応の原動力となります。業界セクターや最終製品に関係なく、あらゆるブランドが技術を通じて表現、伝達、判断されるようになるでしょう。」

グレゴアは、私たちが今、グローバルに広がる巨大なビジネス変革の中にあり、そこでは従来のリーダーシップ、人的資源、財務管理の原則に課題が生じている、と説明します。さらに「これらすべてが、技術を如何に利用するか、ソフトウェアをどのように構築するのかという点で、新しいマインドセットと事業全体の敏しょう性を求めています」と述べます。「我々は新たなチャンスを活かすための対応力を最大限に活かし、イノベーションの余地を残し、卓越した価値をお客様にもたらす必要があります」

### CA のソフトウェア・ソリューションが事業の敏しょう性を最適化

CAは、CA Worldにおいて、アジャイル、DevOps、セキュリティ、およびメインフレームの分野で一連の新ソリューションを発表しました。これらは現代の企業が自社のソフトウェア・ソリューションをプランニング、開発、そしてデリバリーする方法と整合されています。「これらのソリューションは、皆さんが必要とする中核機能とお考えください」とグレゴアは語りました。以下は、これらの新ソリューションの一部です。

- 新しいサービスとしてのアイデンティティ・ソリューション。オンプレミスとクラウド・ベースのアプリケーションのいずれのアイデンティティ/アクセス管理(IAM)のニーズも満たします。
- 新 DevOps 機能。インテリジェント・アナリティクス、およびクラウド・サービスと仮想ネットワークのインテグレーション機能を含みます。
- メインフレーム向けの機械学習機能を含む予測アナリティクス機能。
- アジャイル・プラクティスのスケーリングに対応した主力の SaaS ソリューションへの各種拡張機能。

新製品/サービスの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

基調講演に続いて、グレゴアとともに、宇宙飛行士キャプテン Scott Kelly 氏、航空宇宙分野のレジェンド Burt Rutan 氏、およびロケット科学者 Natalie Panek 氏が登壇し、これまでに考え出された技術の中で最大の飛躍について素晴らしい議論が行われました。基調講演を視聴または再生するには、[こちら](#)で登録してください。

#### CA Technologiesについて

CA Technologies (NASDAQ: CA) は、ビジネスの変革を推進するソフトウェアを提供し、アプリケーション・エコノミーにおいて企業がビジネス・チャンスをつかめるよう支援します。ソフトウェアはあらゆる業界であらゆるビジネスの中核を担っています。プランニングから開発、管理、セキュリティまで、CA は世界中の企業と協力し、モバイル、プライベート・クラウドやパブリック・クラウド、分散環境、メインフレーム環境にわたって、人々の生活やビジネス、コミュニケーションの方法に変化をもたらしています。CA Technologies の詳しい情報については、<<http://www.ca.com/us.html>>(米 CA Technologies)、<<http://www.ca.com/jp>> (日本)をご覧ください。また、ツイッターについては、[https://twitter.com/ca\\_japan](https://twitter.com/ca_japan)をご覧ください。

\*本文中に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

#### この件に関する報道機関からのお問合わせ先:

CA Technologies  
〒102-0093 東京都 千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル 9 階  
コーポレート・コミュニケーション部  
TEL: 03-6272-8110 FAX: 03-6272-8115  
e-mail: CA@pr-tocs.co.jp